

Title	最近英國に於ける豫算の業績
Author(s)	中川, 與之助
Citation	經濟論叢 (1929), 29(1): 150-156
Issue Date	1929-07-01
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/129761">http://dx.doi.org/10.14989/129761</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 京都市大學經濟學會 經濟叢論

第 一 號 第 二 十 九 卷

昭和四年七月一日發行

## 論 叢

消費稅の目的及物體

法學博士

神戸 正雄

勞銀の理論

文學博士

高田 保馬

## 說 苑

ケネーの租稅理論

法學士

山口 正太郎

セイの販路說に就て

經濟學士

谷口 吉彦

シュビートホフの景氣循環論

經濟學士

靜田 均

## 講 演

我國民經濟の實相

法學士

山室 宗文

## 雜 錄

再び佐田介石に就いて

經濟學博士

本庄 榮治郎

プロイセンの地方稅制

經濟學士

安田 元七

動大量と靜大量

經濟學士

木村 喜一郎

輓近フランス經濟學界の傾向

經濟學士

松岡 孝兒

最近英國に於ける豫算の業績

經濟學士

中川 與之助

近著外國經濟雜誌主要論題

## 最近英國に於ける豫算の 業績

中川 興之助

一

英國最近の豫算をみるに一九二四年の豫算は第一次  
勞働黨内閣の蔵相スノーデン氏によりて、それから一

16) Bodin. Principes de science écon

17) Revue d'économie politique, No.

九二五・二六・二七・二八・それについて先頃發表された一九二九年の豫算は保守黨内閣の藏相チャーチル氏によりて編成せられた。今度生まれた第二次労働黨内閣に於てもスノーデン氏は藏相となつたが果して如何なる豫算を作るであらうか、吾人の興味を以て待たるゝ所

であるが、それは姑く先の問題として私は茲に上に掲げた一九二四年以來の英國豫算の業績を追つてみやうと思ふ。先づ一九二五年以來の歳出豫算を掲げる。<sup>＊</sup>

(千磅單位)

	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年	一九二九年
既定費	102,000,000	104,000,000	102,000,000	105,000,000	105,000,000	102,000,000
國債費利拂其他	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
減價基金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
國債費合計	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000	20,000,000
道路基金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
地方補助定支拂其他	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
土地定住費	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
北愛爾蘭庫支出金	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
其他	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
既定費合計	102,000,000	104,000,000	102,000,000	105,000,000	105,000,000	102,000,000
議定費	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
陸軍費	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
海軍費	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
空軍費	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000

\* 各年度の英國財政説明書中にある豫算による。

X 1939の豫算には減價基金と道路基金とが既定費から、又、郵便費は議定費から除かれて別に計上してあるが、前年との比較上表の如く掲げたが、既定費合計、議定費合計には之等を含めぬ。

民	政	費	三七、零三	三三、六九	三三、二五	三三、八四	三三、三三
租	稅	徵收費	二、二三	二、九二	二、七八	二、七七	二、五九
郵	便	費	五、〇八	五、九八	五、〇〇	五、三二	X 五、一〇
議	定	費	四〇、五二	四〇、七二	四〇、五〇	四〇、四三	三九、五〇
合	計		七九、〇六	七九、〇〇	八三、七五	八三、九〇	八三、六三

右に據れば歳出合計は一九二四年に於ては七九〇、〇〇二六磅<sup>千</sup>一九二八年は八〇五、一九五磅<sup>千</sup>であり、さる四月チャーチルが總選舉を前にして提出したものは八〇五、六二三磅<sup>千</sup>である。五ヶ年に歳出の膨脹は僅かに一五、〇〇〇である。今右豫算を労働黨内閣時代と

保守黨内閣時代とに分つてみるに、後者に於て減債基金の増加したること並に陸軍費の減少したことは最も目立ち、更に道路基金・地方税勘定支拂の他北愛蘭國庫支出等の増加したことも注意せらるべきであらう。次に歳入豫算をみる。<sup>\*</sup>(千磅單位)

關稅	消費稅	小計	自勵車稅	相續稅其他	印紙稅	地租家屋稅其他	所得稅
一九二四年	二七、五〇〇	一〇〇,〇〇〇	二七、五〇〇	一五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、〇〇〇	二五、〇〇〇
一九二五年	九、八五〇	三六、五〇〇	二五、〇〇〇	一七、〇〇〇	六、〇〇〇	二、〇〇〇	二九、〇〇〇
一九二六年	一〇、八四〇	一四、〇〇〇	二四、七〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	一、〇〇〇	二四、〇〇〇
一九二七年	二六、五〇〇	一四、〇〇〇	二四、〇〇〇	一四、一〇〇	一五、七〇〇	〇	三三,〇〇〇
一九二八年	一三、五〇〇	二六、五〇〇	二四、〇〇〇	二五、〇〇〇	一七、〇〇〇	六、〇〇〇	三三,〇〇〇
一九二八年	二六、〇〇〇	三三、九〇〇	二七、五〇〇	×四七,〇〇〇	八、〇〇〇	〇	三九,〇〇〇

\* 歳川と同じ。

× 國庫收入の分だけである。

附 加 税	超 過 利 得 税	法 人 利 得 税	小 租 稅 收 入 合 計	郵 便 收 入	電 信 收 入	電 話 收 入	小 計	國 有 地 收 入	各 種 貸 付 利 子 收 入 其 他	通 常 雜 收 入	特 別 雜 收 入	稅 外 收 入 合 計	歲 入 總 計
六、二〇〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	七、九一〇	三、三三〇	五、五〇〇	二、五二〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	一〇九、〇〇〇	八六、一〇〇
七、〇〇〇	四、〇〇〇	九、〇〇〇	七、二二〇	五、五〇〇	五、四〇〇	一、六〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	二、四、五〇〇	八六、〇〇〇
六、四〇〇	三、〇〇〇	六、五〇〇	六、九一〇	五、四〇〇	五、四〇〇	一、九〇〇	五、四〇〇	五、〇〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	八四、七五〇
六、三〇〇	三、〇〇〇	二、七〇〇	六、四八〇	五、三〇〇	五、七〇〇	一、九〇〇	五、三〇〇	五、〇〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	三、三、〇〇〇	八三、三三〇
六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六、七三〇	五、一〇〇	六、一〇〇	二、〇〇〇	五、一〇〇	五、〇〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	三、四、六三〇	八三、三三〇
六、〇〇〇	八、〇〇	八、〇〇	六、四三〇	五、〇〇〇	八、九〇〇	八、九〇〇	八、九〇〇	八、九〇〇	三、三三〇	二、八五〇	三、〇〇〇	六、九、二五〇	七五、九四〇

右をみて消費税及び地租・家屋税等の收入の漸減し  
つゝあること、超過利得税・法人利得税が無力なるも  
のとなりつゝあることを知ると同時に、自動車税相  
續税・印紙税收入が著しき勢を以て増加しつつあるこ  
とが認識せらるゝであらう。最近五六年間は英國の經

濟界に於て極めて重大なる秋であつた。一九二五年に  
は金解禁を斷行して朝野その成行を憂へて居る折柄そ  
の翌年即ち一九二六年には總罷業が突發し更に炭坑争  
議が七箇月間も續いたのである。之がために財政上にも  
も大なる影響を蒙つたのであるが、兎にも角にも二三

年の間に陣營を立て直しえたといふのは、老大國の何れにか未だ大なる底力の潜んでゐることを證明するものであるが、一面に又難局に際して當局の處置宜しきを得たる功績も認めねばならぬ。以下私は英國最初の勞働黨内閣の藏相としてのスノーデン氏と、かゝる經濟國難に際したるチャーチル氏との豫算にのこしたる業績を窺はう。

## 二

第一次勞働黨内閣が成立した時、人々是一種の不安と且は又興味とを以てその豫算を迎へたのであるが、その豫算は案外に健實穩健であつたので社會の信用と賞讃とを博した。そのスノーデン氏の豫算には何等の新税を包含せず、法人利得税及び住宅税を廢し「マッケンナ」税及び輸入砂糖調製品に對する課税を廢し娛樂税を殆ど半減し甘味食卓飲料水課税を廢し乾果物に對する附加税を半減し更に茶税及び砂糖税の引下をした。彼の言によればこれらの提案は「税金なしの朝食」(Free breakfast table)なる愉快なる急進的理想の實現

に向つて嘗て試みられざりし最も大なる躍進をなしたものである。<sup>1)</sup>歳出の方面に於ける彼の豫算の特色は軍事費がその前年に比して七、〇〇〇<sup>千</sup>磅の減少をみたこと、前年の法律の結果減債基金が四〇、〇〇〇磅から四五、〇〇〇磅に引上げられた等の外大なる特色を見出さない。スノーデン氏に代りて起ちし保守黨内閣の藏相チャーチル氏は既に述べたる如く豫算を編成すること五回に及んだ。この間を通じて一貫した氏の努力ともいふべきは財政の緊縮經費の節約であつた。氏が一九二五年の豫算演説に於て「吾人は議定費一箇年一千萬磅以上の緊縮を目標とすべきである」と<sup>2)</sup>その抱負を披瀝してゐる。而して實際上緊縮の實をあげたことも多く人の認むる所であるが就中陸軍費の節減にその努力が最も現はれてゐる。更にチャーチル氏の功績として認むべきは銳意國債の減額に努めたことであつて減債基金も五〇、〇〇〇<sup>千</sup>磅に引上げ、總罷業や炭坑爭議等の爲に國庫の損失莫大なりし折にも前後平均して年々五〇、〇〇〇磅程を支出して來たのである。更

1) 1924 の Budget Speech より。

2) 同上。

に進んで氏の租税政策に言及せうとするのであるが、それに先立ちて彼によりて代辯せられたる保守黨内閣の政綱を一言せう。彼は『抑も現時に於ける國家政策の兩翼的<sup>3)</sup>最高目標とは何である乎、是は一言にして盡くすことが出来る。曰く賃銀生活者の家庭を異常なる不幸より安全にすること及産業を壓迫する負擔を輕減し以て企業<sup>3)</sup>の發達を促すこと是れである』と。然り勞働階級殊に失業者救済と産業の恢復とは保守黨にとりても最大の政策となつてゐるのである。チャーチル氏の豫算をみるに一九二五年には所得税・附加税の引下をなし一方には又遺産税を引上げ禁酒税 (Summary duty) として絹物税を創設しホップスに輸入税を課し「マッケンナ」税を復活するの提案をなした。一九二七年には半透明陶器・輸入自動車タイヤ・輸入感光セルロイドフィルム・輸入葡萄酒等に新税を課しマッチ及び煙草の税率を引上げた。一九二八年には英國產葡萄酒税の引上・ボタン輸入税の引上をなし點火器に輸入税を石油に新税を課し砂糖税の引下をなした。一九二九

年の豫算に於ても電話税や若干の免許税を新設してゐる。政策の許す限り瑣細な財源を漁り廻つたことが窺はれるが、彼自らも『大マカな時代は既に過ぎた。吾人は精確なる計算と制限された範圍との時代に這入つた。今や大藏大臣は如何に僅かな収入でも如何に些細な節約でも之を歡迎し之を追求せねばならぬ時代である』といつてゐる。國庫大臣としての要求はさること乍ら彼の租税政策は果して先に掲げし産業政策社會政策と一致したか否か批評と論難の存する點も尠くないであらう。更に翻つて彼の豫算に就てその經費をみやう。減債基金の引上や陸軍費の節減等に就ては既に述べたる如くなるが、更に官吏の縮員を計つたことも注意すべく、彼は『歳出の減少には……官吏の數を減少する以外には確實なる經費節約の方法がない』<sup>5)</sup>となし『現政府が任に就いてより一九二七年四月一日迄の三年間に減少した官吏の數は七千人以上に達する』といつてゐる。其他社會政策的經費として寡婦恩給養老恩給制度を創めたることは最も著しき業績であり、

- 3) 1925 の Budget Speech より。  
4) 1925 の Budget Speech より。  
5) 6) 1928 の Budget Speech より。



